

## わくわく体験塾～若狭の火 魔法のランプ～

### 1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
28	27	27	26(福井嶺南22・福井嶺北1 県外3)

### 2. 事業内容(概要)

#### ◆ねらい

- ・若狭地域の歴史・文化にふれ、すばらしさに気づく。
- ・大自然での体験を通して、自然の偉大さを学ぶ。
- ・仲間との交流を通して、友情を育み、多くの思い出を作る。

#### ◆期日・期間

2012年 10月6日(土)～ 2012年 10月8日(月) 2泊 3日

#### ◆後援・協力団体

福井県・岐阜県・愛知県・滋賀県・京都府・各府県教育委員会

#### ◆参加者分析

- ・募集人数28名に対して27名の応募があった。嶺南地域(5施設のある地域)からの応募が全体の約8割を占めた。
- ・小学5年生の応募が多かった。昨年度落選した子どもの期待が高く、積極的に体験活動に参加したいという願いが高いということが伺えた。中学生は1名の応募であったが、活動の中でリーダー的な役割を果たしてくれた。
- ・ホームページを見ての応募や、各学校配布のチラシを見ての参加者が多く、中には当施設の教育事業参加リピーターの応募もあった。

#### ◆期待される成果

各施設との連携を強化し、今後それぞれの施設がお互いに協力し合う体制作りができる。

集団で様々な体験をすることとおして協調性・責任感や思いやりの心を育てることができる。同時に、人々が作り出した文化や自然の素晴らしさに気づき、感動し、さらには大切にしていこうとする態度を育てることができる。

#### ◆ 企画のポイント

本事業は、福井県立若狭歴史民俗資料館・福井県海浜自然センター・福井県立三方青年の家・若狭三方縄文博物館と当施設が連携して企画・運営するものである。昨年度に引き続き、5つの施設をまわりながら特色あるプログラムを体験する内容とした。

本年度は、「若狭の火 魔法のランプ」というサブタイトルのもと、火と関わった体験を通して若狭の歴史や文化について学んでいくことをテーマに実施することとした。

■青少年育成事業■

10月6日	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22				
	受付	麻生民俗資料館 火おこし体験	開講式・館内見学	昼食(弁当)	移動 青少年自然の家へ		目撃つそくつり 書房自然の家	薪ひろい 塩搾り	薪ひろい	夕食	入浴	1日のふりかえり	就寝				
10月7日	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	起床・洗面	朝のつどい	朝食	荷物整理・清掃	カタタ漕艇にて海浜 自然センターへ移動	海の状況により変更の 場あり 自然センターへ移動	昼食(弁当)	磯釣り体験 焼き魚 食事	海浜自然センター↓		三万青年の家へ移動	入浴	夕食(ろつそくの灯火にて)	三万青年の家 サービス キヤンドル	1日のふりかえり	就寝	
10月8日	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16						
(月)	洗面	起床	荷物整理・掃除	朝食	三万五湖周遊 三万青年の家	(縄文博物館)	館内見学 勾玉作り		三万青年の家へ移動	昼食	閉講式	解散					

◆広報のポイント

県立・町立施設からは、地元密着型の広報を行い、特に5施設のある嶺南地域には、学校をとおして全児童に募集要項を配布した。また、当施設は県北・他府県への広報を行い、広域からの参加を促した。このように各施設の持ち味を生かして広報を行った。

◆運営のポイント

昨年度と同様に、各施設の運営は担当施設スタッフが行うことを原則としたが、活動内容に応じて他施設スタッフも協力して運営できるようにした。

アイスブレイキングなども意識して取り入れ、3日間の生活や活動を共にする仲間との交流を図った。また、子どもたちの活動を直接支援するボランティアは、班付き指導を中心に、子どもたちが安心・安全に3日間生活できるように配慮した。

5つの施設をすべて回ることを考え、移動順序を検討し、移動時間を可能な限り短縮するとともに、活動内容を精選し、ゆとりのある活動を計画した。

◆安全管理のポイント

活動を行う担当施設スタッフを中心に、他施設スタッフも安全に活動できるよう注意をはらった。また、各施設ごとの緊急時に対応を、他施設スタッフも確認した。

特に海での活動に関しては、緊急車両や救助艇を配置し、緊急時の対策を万全に行うように留意した。

◆期待される成果

各施設との連携を強化し、今後それぞれの施設がお互いに協力し合う体制作りができる。

集団で様々な体験をすることとおして協調性・責任感や思いやりの心を育てることができる。同時に、人々が作り出した文化や自然の素晴らしさに気づき、感動し、さらには大切にしていこうとする態度を育てることができる。

◆事業実施の必要性

若狭地方は自然豊かな環境にあり、京都や大陸とのつながりもあり歴史的にも大変恵まれた環境にある地域である。その良さを地域の人々だけでなく、広く地域外の人々にも理解してもらうために、本所の近隣にある4施設は特色ある活動を各施設で提供している。そこで、広域性をもつ本所を中心に5施設が連携し、地域の活性化に繋がる事業を実施することになり9年目となる。

5施設が連携することにより、若狭地域の文化・歴史と自然の両面の体験が可能になり、地域に愛着をもち、社会的自立につながる活動の場を子どもたちに提供することができる。

◆事業の特色

本所が他の4施設に対してリーダー的な立場で連携をとり、この事業を企画・運営していく。(事務局は持ち回りで担当し、本年度は三方青年の家が担当する。)

共催している5つの各施設を全て訪問するので、参加者に各施設に親しみを持ってもらうとともに、募集時の広報等を通して、地域外の人たちに広く広報することができる。

また、火起こしや勾玉作りなどの歴史文化体験活動と、カッター漕艇や磯釣り体験、自分たちで起こした日や拾った薪を使ってのキャンプファイヤーなどの自然体験活動を行う。子どもたちには5施設それぞれの特徴を生かした様々なプログラムを提供でき、若狭地域のすばらしさを体で十分に感じさせることができる。

◆今年度の位置づけ

12年目の継続事業となる。国立若狭湾青少年自然の家が主導的な立場となり、歴史的・文化的施設と自然体験的施設が企画・運営両面で協力しながら、子どもたちの今日的課題の解決に寄与しようと、子どもたちが興味・関心のもてるプログラムを提供する努力をしてきた。

今年度は、歴史・文化体験に重点を置き、連携事業ならではの歴史的・文化的体験活動と自然体験的活動を提供し、子どもたちの社会的自立の支援をしていく事業にしたい。

◆期待される成果

各施設との連携を強化し、今後それぞれの施設がお互いに協力し合う体制作りができる。

集団で様々な体験をすることとおして協調性・責任感や思いやりの心を育てることができる。同時に、人々が作り出した文化や自然の素晴らしさに気づき、感動し、さらには大切にしていこうとする態度を育てることができる。

3. アンケート結果

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	84%	16%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	84%	16%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	52%	44%	4%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

4. 成果と課題

(1) 成果

・5つの施設が連携することで、活動にストーリー性(今年度は「火」で若狭の自然と歴史を学ぶ)を持たせて連携のとれたプログラミングすることができた。また、各施設が得意分野で活動を展開することで、魅力的な活動を提供することができた。

・これまでの反省を活かし、5つの施設がそれぞれ「火」の位置づけを明確にしたことにより各施設の特色を出しつつ関連性のある活動ができた。結果、参加者の感想からも普段できないいろいろな経験ができたという声を多く聞くことができ、あらためて充実した企画であることを確認した。

・班付きリーダーが子どもたちと深く関わり、触れ合うことができ、安心して生活し、また活動に参加することができた。そのことで高い達成感も味わうことができた。また、職員スタッフとともに全体指導をともに行ったが、各施設担当が随時変わることに伴う弊害を拭うことができ、さらに、班付きリー

ダーや参加者に近い年齢ということもあり、スムーズに進行することができた。

(2)課題

- ・集合して開講式、その後すぐに活動プログラムに移った(15分程度のアイスブレイキングはあったが)、もう少しアイスブレイキングの時間や班での話し合いの時間をとることで、活動へのスムーズな参加ができたのではないかと考える。
- ・時間的な余裕を作ろうと、各施設の活動を「火」について焦点づけをするよう計画をたてたが、子どもたちが本施設で最も長く活動するため、活動内容を充実していく必要がある。今回は「火」を使った活動を通して若狭について理解を深めるようにしたが、本施設の特徴(広さ・海・運営資源等)を活用したプログラムがあったらよかった。そのために既存のプログラムにとられない柔軟な計画が求められる。また本施設のプログラムを他の施設において活用できるようにすることにより、他施設の活動がマンネリ化しないように配慮する必要がある。
- ・来年度、若狭湾青少年自然の家が幹事施設となる。これまでの流れを一度ふり返り、これまでにない形を考えていくことが期待される。そのために各施設に積極的に情報発信していくとともに、各施設の事業などを通して連携を深め、それぞれの特性を改めて見つめ直す必要がある。
- ・運営について不満を持つ子どもがいた。その理由は「けじめがない」行動があったからである。教育的な場として、スタッフやボランティアが一体となって毅然とした姿勢で臨みながら指導することも必要であり、来年度以降の指導のあり方について一石を投じる評価となった。

(3)参加者の声

- ・友達がたくさんできるとは思っていなかったのでよかった。
- ・また来年も参加したい
- ・楽しかった
- ・普段できないことのような体験がたくさんできてうれしかった
- ・とても楽しい貴重な面白い体験ができた
- ・見知らぬ人とも明るく楽しく接することができた。また来年も絶対に来たい。
- ・みんな楽しそうだった
- ・自分が成長したと思う。
- ・五施設以外の自然の場所で活動してもいい

(4)活動の様子

<福井県立歴史民俗資料館での活動>



【開講式】



【火おこし体験】



【ランタン点火】

<国立若狭湾青少年自然の家での活動>



【貝殻ろうそく作り】



【海水からの塩作り】



【夕食】



【1日のふりかえり】

<福井県海浜センターでの活動>



【カッター漕艇】



【磯釣り】

<福井県立三方青年の家での活動>



【焼き魚】

<若狭三方縄文博物館での活動>



【ろうそくの灯火での夕食】



【キャンドルサービス】



【勾玉作り】